

---

## 2019 年度活動報告書

准教授 カストロ・ホアン

### 学内での活動

#### 授業

芸術特論 A の主なテーマは、バイオアートの始まり、現在、今後の可能性についてである。今、最も HOT なバイオアートに関するキーワードも紹介。バイオアートの歴史を知り、バイオマテリアルと生物がどのように新たな芸術的な表現メディアになったかを学ぶ。またバイオアートを用いた作品制作の手法と表現の可能性、生命らしい技術について学生によるディスカッションも行う。IAMAS2020 卒展では学生がトークイベント「バイオアートの手法」を企画し、本講義のバイオアートのテーマを通じて、これからの時代における「美」と「生命」について深く考察できたことがうかがえた。

#### 個人研究・制作

- ・「プロトエイリアン・プロジェクト」

2018 年に引き続き、久保田晃弘（多摩美術大学教授）、関根康人（東京工業大学教授）、豊田太郎（東京大学准教授）と共に「プロトエイリアン・プロジェクト」の共同研究を行っている（科研費基盤研究 C）。

- ・「Matter does Matter」 - Hybrid installation

This work showcases tiny kinetic objects that create copies of themselves. These agents composed of fats swim and divide in the water over and over until a lack of new materials brings them to a standstill. Their strange agency confronts the viewer with the visceral experience and physical actuality of a non-living, yet, lively and quivering self-dividing system.

#### 研究助成

- ・「ポスト・デジタル時代におけるウェットウェア・アート」科研費基盤研究 C（2018 年 - 2020 年）代表者

#### 論文・トーク

- ・“Non-terrestrial material agency”

Castro Juan M., Akihiro Kubota “Non-terrestrial material agency”. *Performance Research* Vol. 25.3 (in press, 2020)

- ・バイオアートの手法

IAMAS2020 卒展のトークイベント（2020 年 2 月 22 日）、「バイオアートの手法」に登壇。準備では M2 と M1 の学生と意見交換を行い、テーマや内容、スケジュールについて計画した。

---

## 学外での活動

### シンポジウム・講演

- ・「国際シンポジウム「活動する物質：アートと自己組織物質 / 物質の行為者性 / プロト・エイリアン」の企画・主催

2019年6月7日（金）、多摩美術大学八王子キャンパスのレクチャーホール C で、「活動する物質」英語では「**Matter(s) in Motion**」と題する国際シンポジウムを企画、開催した。2018年度から採択された JSPS 科研費、基盤研究(C)「**Investigation on wetware art in the post-digital age**（ポスト・デジタル時代におけるウェットウェア・アートに関する研究）18K00203」の助成を受けて実現した。このシンポジウムは久保田晃弘（多摩美術大学教授）とともに企画、準備を行った。登壇者は「バイオアート」の世界的な権威である Ingeborg Reichle（ウィーン応用美術大学教授）、Jens Hauser（コペンハーゲン大学研究員）、山岸山岸明彦（東京薬科大学教授）、関根康人（東京工業大学 地球生命研究所教授）、豊田太郎（東京大学准教授）を 招聘した。シンポジウムのタイトルにあるように「物質とその能動的なふるまい」を参照点として、芸術、哲学、化学、生命科学、宇宙生物学といったさまざまな分野からウェットウェア・アートの過去、現在、そしてこれからの可能性を議論した。

- ・「地球外物質の自己集合化能力、行為性と主体性を探る」の講演

国際シンポジウム「活動する物質：アートと自己組織物質 / 物質の行為者性 / プロト・エイリアン」（2019年6月7日）において講演「地球外物質の自己集合化能力、行為性と主体性を探る」とパネルディスカッションを行った。講演では地球とは別の（水を用いない）物質で、生命と非生命の境界にある物質システムをつくることに挑戦する「プロトエイリアン・プロジェクト（Proto-A）」について提案した。このプロジェクトはエイリアン生命に関する問いに取り組み、人間にはまだ知られていない、新たな種類の地球外（非人間）エージェンシーとその生命らしさについて考えることである。このプロジェクトでの直観的な経験が、物質、生命、自己、および意思に対する人間中心な概念を、大きく変える可能性があるのではないかと期待している。

### その他社会活動など

- ・「ウェットなロボット」講義とワークショップ

2020年2月12日に＜NPO 法人子供と科学技術の架け橋＞の主催による事業岐阜県内小中高学校で「講演と実験の会」の講師を務めた。岐南町立岐南中学校の体育館において「ウェットなロボット」と題する講義とワークショップ（ウェットなロボットのシンプルなモデル（筆者が作成した自走油滴）の実践と指導）を行なった。参加者数は岐南中学2年生 189名。